



発行所
 横浜市中区港町1-1
 電話 (045)543-7190番

横浜市庁舎内
 港記者室
 電話(045)671-3325
 主筆 三村貞夫



指入れ合コンではなく、看護学校の生徒とホテルでパーティをしただけです。(陳 正堂氏) 撮影者 根本由美子さん。

「指入れ合コンは事実無根」中田 宏横浜市長(当時)は東京地裁に「講談社」を提訴した。

中田 宏と刎頸関係の友は事実無根の裏づけとして裁判所に陳述書を提出した。

中田は被害者が証言しない事を奇貨として、講談社に全国紙に謝罪広告を出すよう要求し、講談社もダウン寸前に追い込まれた。

陳述書 根本由美子

1 週刊現代の記事に掲載された写真は、当時衆議院議員でいた中田さんと一緒にいた際に、同席した友人たちと中田さんを囲んで記念撮影した写真で、私が持参したカメラで撮影されたものです。

私がかメラを持参していたので、せっかくの機会なので記念に写真を撮ろうということになり、参加していた男性の方にお願ひして記念撮影をし、後日同席した友人たちに配りました。週刊誌に掲載された写真はまさにその写真です。

2 週刊誌に掲載された写真がどのようにして、週刊現代の方に渡ったのか、誰が渡したのかはわかりませんが、まったく事実と違ったような形で利用され、掲載されたため、私自身大変困っています。

根本さんは、中田 宏関係者に頼まれたのでしょうか。陳述書の概略で、写真の関係文だけを抜粋した。

陳述書(原文全文)

私、陳正堂は、平成19年3月7日の中山大輔市会議員と中田市長との面会の席に同席しておりましたので、週刊現代の事実無根な報道に対して、陳述します。

1、平成5年、私は知人の紹介で当時衆議院議員に当選したばかりの中田市長と知り合いました。以後、年齢も1つ違いと言うこともあり、非常に親しく付き合うようになり、以前より両親や子供も含めた家族付き合いをしていました。もちろん、中田市長の選挙ボランティアをしたこともあり、横浜市長に当選後は、ボランティアで後援会活動の手伝いもしていました。

2、私が中山市議と初めて会ったのは、平成15年の横浜市議員選挙の前年の暮れでした。横浜中央病院(横浜市中区山下町に所在)の看護師であった若井さんから紹介されたのがきっかけです。

中山市議は当時、横浜中央病院の職員でしたが、平成15年の横浜市会議員選挙に立候補するので応援をしてあげてほしいと頼まれました。私は全く中山市議に関する情報もないまま紹介をされましたので、席上、私は中山市議の志を確認するために「何故、市議員に立候補をする決意をなされたのか」、「民意代表として何を達成したいのか」という質問をしました。中山市議は、私の予想に反し、本当は出たくない、坂田病院長から出ると言われ

ており悩んでいる」等の返事でした。そこで私は志がないのであれば、議員になるべきではない」と伝え、応援をお断りしました。しかし、その選挙の数日前のことですが、横浜中央病院の坂田病院長から「中山もやる気になつていいるから、応援をしてあげてくれ」と頼まれました。

そこで私は坂田病院長とともに中山市議の選挙事務所に向いました。そうしたところ、中山市議は「市政の為に一生懸命頑張りたい」との言葉がありました。些細な一言ではありませんが、私としては志を確認したので、ボランティアで応援することとし、選挙区内の中田後援会の有力者数名を中山市議に紹介をしました。そして、多くの支持者の力で中山市議は初当選しました。

2、当選2、3ヶ月したある日、私は中山市議や他の1年生市議との宴席(桜木町のバー)に呼ばれました。その席で、中山市議は私の肩を叩きながら、わざと他に聞こえるように「今度また市長と一緒に若井さんたち看護師と合コンしようよ。仲間同士じゃないですか」と言われしました。中山市長は勿論のこと、私は中山市議と合コンに行つたことなど一度もありません。

中山市議は、自分が中田市長に近い人物であることを他の若い市議にアピールしたい為なのか判りませんが、全くあり得ないことを言いました。

こうした虚偽の言動等から、私は、中山市議は政治家には相

応しくない人物であると考え、以後、接触しない様にしていました。また、その後、一年くらいい後に、選挙時に私が中山市議に紹介した選挙区内の中田後援会の有力者であります小正武さんから、中山市議は真面目に市政活動をしていないのではないかとクレームを受けましたので、困惑して単身小山正武さんの会社に謝罪に行つたことも覚えておきます。

4、その後、中山市議の後援会長でありました医師の塩原和夫先生からか、小幡市議からか記憶がはつきりしませんが、3月7日に中山市議が中田市長に会うので同席してほしいと言われましたので、同席しました。場所は、横浜市中区不老町のビルディング内の一室です。多忙な中を中田市長が来られました。つまりその席には、

中田市長・小幡市議・中山市議・塩原後援会長がいました。席上、まず塩原後援会長が「来る選挙においても中山市議を応援してほしい」と口火を切りましたが、中山市議はあまり話しませんでした。塩原後援会長、小幡市議、中山市議とも、噂に関する一切触れずにいましたので、私が中山市議に噂の真偽を訊ねました。もしも本当であるならば、議員にあるまじき言動でないかと問いました。いわゆる合コン云々では、以前に「今度また市長と一緒に若井さんたち看護士と合コンしようよ。仲間同士じゃないですか」と言つた事実(前例)もありましたので、その様

なありもしない事を真実と誤認されてしまいかねない言い方をするのは慎むべきではないかと問い質しました。

5、後日、小幡市議より再度、横浜市中区不老町のビルディング内の一室に呼ばれました。そこにはいたのは小幡市議と中山市議です。小幡市議が内ポケットから「小幡副議長」と書かれた茶封筒を私に示し、「中山から誓約書を預かつたから、応援を宜しくお願い」と言われました。私が「どの様な誓約書なのか、見せてくれませんか」と小幡市議に訊ねましたが、文面は見せて貰えませんでした。席上、私は小幡市議から、中田市長に中山市議を応援する様に口添えを頼まれましたが、噂の真偽が不明瞭のままだったので、私は明言を避けました。その後、私は自らの仕事があつたので退席をさせて貰いましたが、その日の夕刻に中山市議から何度か連絡があり、すぐに会つてほしいとの事でしたので、私の実家の中華料理店で会うこととしました。中山市議は「小幡副議長」と書かれた茶封筒を私に差し出し、内容を確かめてほしいと言いました。

私は中山市議・塩原後援会長・小幡副議長に対し、中山市議の次の選挙は、中田市長の応援に頼るのではなく、過去4年間の自身の実績を市民に問うて戦うべきではないのかと提案しました。しかし、中山市議・塩原後援会長・小幡副議長3人共が、中田市長の応援なくして当選はできないと言ひ、市長の改革の後押しをする覚悟なので、何とか応援をしてほしいと再三懇願して行きました。そうしたところ、塩原後援会長が、今後も横浜市民のために市政を真面目にやる意思を表すべく中山市議に「誓約書」を書いたらどうかと提案がありました。実際にはその場で

の誓約書の作成はありませんでしたし、ましてや脅かして「詫び状を書かせた」という話は事実無根です。

6、そうした経緯を経て、中山市議は平成19年の市議選も再選しました。しかし、当選するや中山市議は、噂どおり中田市長の行革反対する会派に移つて行きました。前述の噂は本当だった訳です。中田市長に応援を頼みながら、労働組合と関わり合いの深い会派に入つたので、もちろん、小幡市議や塩原後援会長も裏切られる結果となりませんでした。

7、ところが、週刊現代には中山市議が、中田市長と看護学校生との合コンで、破廉恥な行為をされた女子学生から相談受け、中田市長にその事について注意したところ、中田市長が中山市議に対して「黙っている」と脅迫し、詫び状を書かせたと報道しましたが、前述のとおり、これは全くの事実無根です。また、私は週刊現代の記者と中山市議のいる席上に、呼び出されて幾許かの報酬で、虚偽の証言をするように要求されたり、いわゆるハレンチ合コンと称されるものとは全く関係のない会合の写真(週刊現代に掲載されたもの)の提供を要求された看護士が存在することを知っています。全く関係のない会合と、中山市議との面会、宣誓書を書いた事柄などを勝手に結びつけ、何でもない会合を、意図的にハレンチ合コンに仕立て上げたことは明白です。

今回の週刊現代と中山大輔市議らの行動は、読者に真実を伝える責務のあるマスコミの無責任な報道と、有権者を無視し、自らの地位保身を優先する心無い市会議員が起こした許し難い事件だと思ひます。彼らの無責任な行動が市政の停滞をもたらし、どれだけの損失を横浜市民に与えたのか計り知れませんが、一市民、一有権者として心が痛みます。

陳述書(原文抜粋)
1、私は、平成19年4月の横浜市議員選挙のあと、4月29日まで2期目の当選をした中山大輔君の後援会会長を約4年間やっておりました塩原和夫と申します。

陳述書(原文抜粋)
陳正堂氏の陳述書の中に、塩原和夫(市の公金詐取)小山正武(市有地の不正使用)小幡正雄(民主党を離党勧告)上垣秘書(中田宏の影武者)の各氏が登場し、刎頸関係が鮮明に

その内容は「宣誓書」と題されていて、誠実に市政に取り組みの内容が書かれていました。また、中山市議から再三にわたる中田市長への応援の口添えを頼まれました。余りにも懇願をするので、私はもう1度中山市議を信用しようと思ひました。そこで私は中山市議

に、私からも中田事務所にも連絡を入れて応援依頼をいれておくので、中山市議本人からも中田事務所の上垣秘書に連絡を入れ、中田市長の顔写真等の使用承諾を得るようにとアドバイスしました。実質的に中山市議は選挙で中田市長の応援を得る事ができた訳です。その後、中山市議の書いた宣誓書は、私が預るべき性質のものでありませぬので、選挙終了直後に塩原後援会長の事務所に戻しました。

重ねて申し上げますが、その宣誓書の内容は、誠実に市政に取り組みの内容で、決して存在する筈もないハレンチ合コンを口外しない云々という、低次元な内容は書かれていませんでした。

解説

陳述書(原文抜粋)
陳正堂氏の陳述書の中に、塩原和夫(市の公金詐取)小山正武(市有地の不正使用)小幡正雄(民主党を離党勧告)上垣秘書(中田宏の影武者)の各氏が登場し、刎頸関係が鮮明に